

## 令和4年度の事業概況

## ■ 経営環境

令和4年度は、3か年計画「にしん活動方針（令和3年度～令和5年度）」の二年目で、最終年度の翌令和5年度に迎える創立110周年に向け、「支援力の強化と変革への挑戦」を目指しました。令和4年度の我が国経済は、3年間にわたるコロナ禍を経て、ワクチン接種普及や行動制限緩和を受け、ようやく年度後半には社会・経済活動が正常化に向かいました。当金庫としても、生産年齢人口の減少や後継者不足といった地域が抱える構造的課題に対応すべく、お取引先との伴走型支援体制を構築し、販路拡大や人材紹介、事業承継・M&A支援等に取り組むとともに、コロナワクチンの職域接種などのコロナ支援や子供が輝く未来応援定期預金の発売などの地域目線での支援を進めてまいりました。これらの結果、令和4年度の業績については、後述のとおりとなっています。

## ■ 預 金

皆さまにご愛顧いただいた結果、個人預金、法人預金共に伸張り、年間増加額175億円、増加率1.25%となりました。

## ■ ここがポイント!

お客さまのニーズをタイムリーに捉えた商品販売などにより、順調に増加しています。

預金残高 (単位:億円)



## ■ 貸 出 金

コロナ禍、お客さまの資金繰りを支えるべく積極的に資金支援に応じたことや、前向きな設備投資、住宅ローンにも積極的に取り組んだことから、年間増加額419億円、増加率6.07%となりました。

## ■ ここがポイント!

地域のお客さまの様々な資金ニーズに応え、円滑な資金供給に努めています。

貸出金残高 (単位:億円)



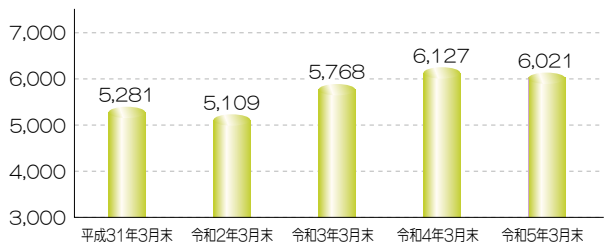
## ■ 有価証券

地域の皆さまへの資金供給に努めるだけでなく、金庫資産の流動性を高めるとともに、安定的な収益を確保するほか、金融機関としての公共性・社会性を発揮するため、国債、地方債、事業債などへの投資を行っています。令和4年度の期末残高は6,021億円となり、前期に比べ106億円減、減少率1.73%となりました。

## ■ ここがポイント!

信用リスクの低い債券を中心に購入し、仕組債をポートフォリオ全体の1%未満に抑えるなど堅実な運用を行っています。

有価証券残高 (単位:億円)



## ■ 対処すべき課題

## 課題解決型金融の推進

コロナ禍を経た経済環境においては、従来以上にお客さまのニーズに応じた各種支援や金融仲介機能の発揮が求められており、これらを通じ、経営ビジョンのゴールに掲げる「お客さまから選ばれる・お客さまが紹介したくなる“にしん”」を目指します。

## リスク管理の高度化

金融環境の変化に伴う各種リスクの多様化・複雑化に迅速かつ適切に対応し、経営の健全性

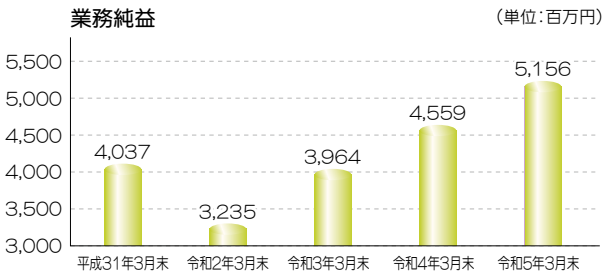
## ■ 損益の状況

### ■ 業務純益

業務純益は5,156百万円となり、対前期比増加額597百万円、増加率13.10%となりました。

#### ■ ここがポイント!

貸出金利息、有価証券利息配当金が増加した一方、預金利息は減少し、業務純益は対前期比で増加しました。

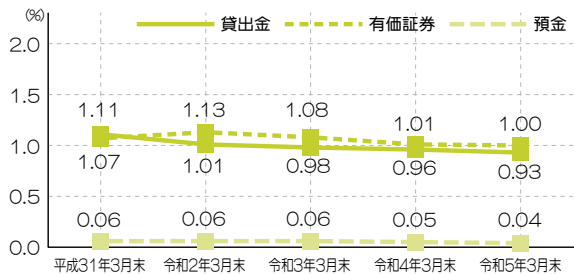


## ■ 利 回

対前期比で、貸出金利回は0.03ポイント低下、有価証券利回は0.01ポイント低下、預金利回は0.01ポイント低下となりました。

#### ■ ここがポイント!

我が国における低金利政策の継続を背景に、運用・調達のリ回水準は引き続き低下傾向にあります。



を確保するため、ALMの高度化、融資審査・管理の強化、内部管理態勢の強化等、総合的なリスク管理の高度化に継続して取り組む必要があると考えています。

### ■ 経営体質の強化と人材育成

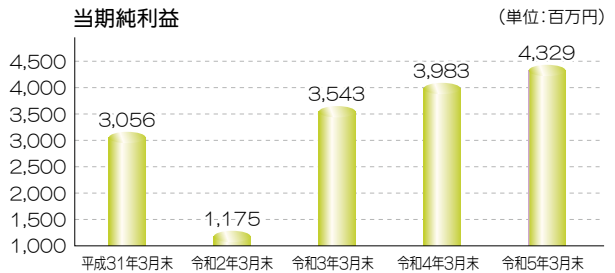
地域やお客さまから確固たる信頼を勝ち得るためには、当金庫の収益性・効率性・健全性をより一層高めるとともに、質の高い人材の確保と育成が必要であると考えています。

### ■ 当期純利益

当期純利益は4,329百万円となり、対前期比増加額346百万円、増加率8.69%となりました。

#### ■ ここがポイント!

業務純益の増加に加え、前期に計上した株式等償却がなくなったこと等もあり、当期純利益は対前期比で増加しました。

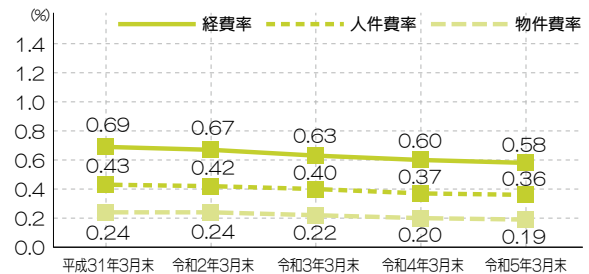


## ■ 経費率

店舗の建替・リニューアルの際に照明のLED化を進めて消費電力の削減を図るなど、金庫全体で経営効率化に取り組んでおり、対前期比0.02ポイント低下し、0.58%となりました。

#### ■ ここがポイント!

お客さまに良質な資金を安定的に供給するため、業界平均よりも低い経費率の維持に努めています。



## ■ 総資産利益率

対前期比で、総資産が2.59%増加、経常利益が4.55%増加、当期純利益は8.69%増加となったことから、総資産経常利益率は0.01ポイント、総資産当期純利益率は0.02ポイント上昇しました。

#### ■ ここがポイント!

総資産利益率の算出方法は  $\frac{\text{利益}}{\text{総資産(平均残高)} - \text{債務保証見返(平均残高)}}$  です。貸出金利息や有価証券利息配当金の増加や、前期に計上した株式等償却がなくなったこと等により経常利益および当期純利益が増加し、総資産利益率は上昇しました。

